

江戸幕府天保巡見使について (三)

大 舘 右 喜

前号において関説したが、江戸幕府は大名領地や旗本知行地に巡見使を派遣し、各領主の施策を監察して統制を加えようとした。巡見使は概ね將軍の代替りごとに全国に派遣され、諸大名の領地・旗本知行地に立入り、村落事情や民衆の実態把握を試みたのである。なお巡見使制度は諸国巡見使と国々御料所巡見使により構成され、両者は相互に牽制しながら派遣の実をあげたのである。

前号に続き紹介する天保巡見使は、家慶の十二代將軍繼嗣による恒例の代替り派遣であった。幕府は天保八年七月十六日、国々巡見御用として、使番安藤治右衛門ほか八組を編成し、直に発遣するようにと命じた。その大要は巡見正使を使番より任命し、副使を小姓組・書院番より補うものであった。八組の内容は次の通りである。使番安藤治右衛門定喬組は馬場大介（小姓組）と内藤源助（書院番）。使番土屋一左衛門群直組は、設楽甚十郎（小姓組）と水野藤次郎（書院番）。使番木下左兵衛利亮組は、石尾織部（小姓組）と笥新太郎（書院番）。使番諏訪頼負頼安組は、竹本彦八郎（小姓組）と石川大膳（書院番）。使番平岩七之助親仁組は、大久保勘三郎（小姓組）

と近藤勘七郎（書院番）。使番曾我又左衛門誥祐組は、片桐鞞負（小姓組）と三枝平左衛門（書院番）。使番。黒田五右衛門直良組は、中根伝七郎（小姓組）と黒田右記（書院番）。使番山本七郎左衛門正朝組は、三宅三郎（小姓組）と市岡内記（書院番）であつた。

使番を正使とする右の八組は天保九年二月十九日より各々担当地に出遣することになった。また幕府御料所を巡見する勘定方も、同年二月二十六日、各地の監察を命ぜられ諸国・御料所の両巡見使が同時に出発している。

（『統徳川実紀』第二篇）。

諸国巡見使の発遣路は延享度の出遣によりほぼ固定し、巡見内容も概ね古例を踏襲するものであつた。幕府は諸国巡見使が領主の施策状況を監察しつゝも、領主権を侵す行動を禁じ、領内からの直訴受入などを厳禁して、表面上は柔軟な対応を命じ、事の理非は探索のうえ後日の処理を待った。一方、御料所巡見使は天領行政の細部まで監察し、村落の疲弊要因、宿場町の頹廢状況、在郷市場の盛衰動向など、諸村の村役人を召集して査問を行った。また、巡見使に対して衆庶の直訴を認め、訴状の受理を触れさせている。巡見使派遣に端を發した蜂起などの事件は、前稿で指摘したとおりである。

さて、小稿で紹介する「天保九年戊戌年正月御巡見御用諸事控」は武州忍藩領秩父大宮町の割元役松本宗左衛門の記録したものである。忍藩領の飛地であつた秩父大宮町（現秩父の市街地を中核とする地域）の割元名主松本氏が、巡見使安藤治右衛門一行の監察動向と、領内諸村の対応を克明に綴っている。また割元役は、同時に江戸を発ち天領を監察した御料所巡見使が、秩父領諸村を巡廻する動向、諸負担なども綴り、天保期の両巡見使の監察動向を詳細に伝えているのである。この記録の重要性が確認できるであろう。

さきに掲げた使番安藤治右衛門は、三月上旬江戸を出立し、下総・武蔵・上野などを巡見し秩父領に達している。経路の若干は前号に紹介したとおりである。

使番安藤治右衛門は高二千五百四拾石を知行する旗本である。巡見使として供人数は四十名程を召連れ、その内訳は用人二名、給人二名、侍七名、徒士五名、足軽中間又者が二十四名である。用人は長江三郎兵衛・亀田雄助、給人は鈴木仲右衛門・石井周助である。

小性組馬場大介は高二千石を知行し、巡見の供人数は四十名、その内訳は安藤と同様であった。用人は仙石伊兵衛・泉田多門、給人は新井万六・加勢要之丞である。

書院番内藤源助は高八百五拾石を知行する旗本で、巡見使として供人数二十七名、そのうち用人二名、給人二名、侍六名、徒士三名、足軽中間又者など十四名を率いている。用人は相良進平・岡田太作、給人桃井儀八・鷹松弥左衛門である。

秩父領は忍藩領大宮町等を除くと大半の郷村は天領であった。時を同じくして江戸より出遣した御料所巡見使の中尾太右衛門（御勘定）・芳賀市三郎（支配勘定）・小野作之丞（御徒目付）らも秩父領諸村を監察する。

御料所巡見使は監察にあたり天領諸村に、御朱印・御證文などの御用書物長持を運ぶ人足、具足・駕籠・両掛・合羽籠人足等の負担を命じている。

天保九年秩父領の巡見は史料を整理すると次のような構成によりおこなわれた。各地域における御用担当者は第一表の通りであった。

また三沢村詰の人足、大宮郷のそれは第二表の構成で実施されたのである。

第1表 忍藩秩父領巡見御用担当者一覧表

	村名	現市町村名	石高	巡見御用担当者
1	大宮郷	秩父市	2416,1370	割役：松本宗左衛門 ^A ・割役格名主：吉田伊平太・割役格名主：久保市郎平衛 名主：峯八 ^B ・勇太郎・準平・半次郎・源四郎・四郎右衛門 持高名主：左団次 ^C 名主格組頭：平吉 組頭：丈助・直太郎・伝右衛門・善右衛門・六左衛門・平兵衛 組頭格：宗兵衛 ^C 百姓：弥兵衛 ^B ・曾兵衛・武兵衛 医師：佐野玄銅・久保玄行・足立春英 女本人：さと ^A 升屋利兵衛
2	横瀬村	秩父郡横瀬町	1392,0090	割役：加藤四郎左衛門 割役格名主：嶋田可左衛門 名主：勘右衛門・源右衛門 組頭：金治・権左衛門・治右衛門 組頭格：安左衛門・伝右衛門 百姓：平五郎・五右衛門
3	山田村	秩父市	708,7000	名主：恭次郎・関之丞 組頭：重左衛門
4	栃谷村	"	314,2830	名主：国次郎
5	定峯村	"	180,9790	
6	三沢村	秩父郡皆野町	442,2440	名主：土次郎 ^A 百姓：岡右衛門 ^B ・卯兵衛 ^C ・初吉 ^A 医玉寺 ^B ^C
7	黒谷村	秩父市	409,9940	名主：寅次郎 組頭：定六
8	大野原村	"	480,6290	名主：九兵衛
9	別所村	"	155,2130	名主：桂助 組頭：九兵衛
10	下影森村	"	313,6940	名主：貞助
11	上影森村	"	305,7640	名主：重次郎
12	浦山村	"	142,9260	名主：五兵衛
13	久那村	"	580,1700	名主：瀬兵衛 組頭：嘉四郎・仁兵衛
14	上田野村	秩父郡荒川村	559,6970	名主：又右衛門・広吉 組頭：喜右衛門
15	日野村	秩父郡荒川村	226,4270	名主：平左衛門
16	白久村	"	394,2553	名主：重右衛門 組頭：清八・五右衛門・孝左衛門
		合計	9023,1213	

※1. 村名のうち太字のものは巡見使一行が通過した村である。

※2. 石高は「天保郷帳」（『内閣文庫所蔵史籍叢書』）によった。

※3. 「御巡見御用諸事控」3月14日条の「覚」をもとにして作成。

____は御泊所、____は御泊所下宿、____は御休所、____は御休所下宿を示す。また、Aは使番・安藤治右衛門、Bは小姓組・馬場犬助、Cは書院番・内藤源助のことである。

第2表 三沢・大宮郷における人馬割付

三沢村詰	馬53疋	人足300人	駕籠25挺	村名	案内・人馬肝煎	案内場所
青札	18疋	77人	6挺	横瀬村	大宮郷名主勇太郎	本陣松本宗左衛門迄
		20人	1挺	定峯村	横瀬村名主勘右衛門	
		13人	2挺	枋谷村		
白札	10疋	72人	4挺	山田村	大宮郷名主準平	本陣格宗兵衛迄
	8疋	25人	4挺	大野原村	山田村名主泰次郎	
					大野原村九兵衛	
赤札	6疋	43人	2挺	黒谷村	大宮郷名主半次郎 黒谷村名主寅次郎 黒谷村与頭定六	本陣峯八迄
	5疋	24人	3挺	枋谷村		
		26人	3挺	大野原村		
	3疋			定峯村		
	3疋			山田村		

大宮郷詰	馬53疋	人足350人	駕籠50挺	村名	賛川村迄案内
青札	6疋	34人		下影森村	大宮郷名主勇太郎 ^{※1}
	6疋	33人		上影森村	上田野村名主広吉
	6疋	66人		横瀬村	日野村名主平左衛門 白久村与頭清八
白札	10疋	62人		久那村	大宮郷名主準平 ^{※1}
	6疋	17人		白久村 ^{※2}	白久村名主重右衛門
	2疋	15人		浦山村	上影森村名主重次郎
		16人		別所村	白久村与頭五右衛門
赤札	4疋			別所村	大宮郷名主半次郎 ^{※1}
	4疋	24人		日野村	浦山村名主五兵衛
	9疋	58人		上田野村	上田野村与頭喜右衛門
	1疋	25人		白久村 ^{※2}	白久村与頭幸右衛門

「御巡見御用諸事控」天保九年三月十六日覚えより作成

※1 人馬肝煎兼

※2 猪鼻共

第3表 関連村々石高一覧表

【表A】秩父郡

村名	元禄郷帳 ⁽¹⁾	天保郷帳 ⁽²⁾	旧高旧領(領主)	現市町村名
安戸村 ^{やすと}	403,7110	406,1840	102,73433(前橋藩領) 5,0000(上品寺領) 5,3000(聖岩寺領) 計 113,03433	東秩父村
三沢村	425,0850	442,2440	442,2440(忍藩領)	皆野町
上田野村	523,4700	559,6970	559,6970(忍藩領)	荒川村
日野村	213,3550	226,4270	226,4270(忍藩領)	
贅川村	407,9000	408,8380	408,8380(前橋藩領)	
薄村 ^{うす}	1118,8680	1121,7520	1116,8940(郡代木村飛騨守支配所)	両神村
上小鹿野村 ^{かみおかの}	618,1580	621,4170	621,4170(森昌之助知行所) 143,4880(森吉右衛門池知行所) 計 764,9050	小鹿野町
太田村	591,5450	588,8100	258,1102(森昌之助知行所) 66,9941(金田助左衛門知行所) 166,02254(牧野細太郎知行所) 計 491,12684	秩父市
金崎村	319,2260	214,2700	214,2700(松村遠江守知行所) 96,78034(根岸備前守知行所) 計 311,05034	皆野町
三山村 ^{さんやま}	228,9200	230,2590	203,2590(郡代木村飛騨守支配所)	小鹿野町

(1)(2)『内閣文庫所蔵史籍叢書』所収。以下も同様。

【表B】比企郡

村名	元禄郷帳	天保郷帳	旧高旧領(領主)	現市町村名
小川村	495,4240	495,4240	485,4240(前橋藩)	小川町
高見村 ^{たかみ}	241,4250	289,6250	87,8000(田村鉢之丞知行所) 55,0000(奥村八十郎知行所) 2,0020(小宮山内膳知行所) 計 144,802	
能増村 ^{のぞ}	271,5020	273,3690	170,8041(伊藤安兵衛知行所) 15,2(2の単位不明)(小宮山内膳知行所) 計 186,0041余	
伊勢根村 ^{いせね}	74,6730	74,6730	74,6730(菅沼藤十郎) 96,6230(佐久間福之助) 計 171,2960	
高谷村 ^{たかや}	440,1480	440,1480	441,1480(林辰郎知行所) 150,3510(花房長左衛門) 109,4640(本井藍物知行所) 計 700,963	
角山村 ^{かくやま}	232,2310	237,4510	237,4510(久留里藩領)	

【表C】埼玉郡

村名	元禄郷帳	天保郷帳	旧高旧領(領主)	現市町村名
行田町			98,0200(忍藩領)	行田市

【表D】児玉郡児玉町

村名	元禄郷帳	天保郷帳	旧高旧領（領主）	現市町村名
児玉村	1293, 1740	1281, 1750	137, 0400（松前藩頼負知行所） 142, 3500（花房長左衛門知行所） 136, 2380（本井藍物知行所） 6, 0000（玉蔵寺領） 512, 6660（戸田太郎知行所） 計 934, 294	児玉町
下児玉村	500, 000	500, 000	500, 000（安藤引三郎）	

【表E】大里郡寄居町

村名	元禄郷帳	天保郷帳	旧高旧領（領主）	現市町村名
古寄居村	270, 1439	270, 1429	72, 2840（内藤武三郎）	寄居町
新寄居村	252, 1470	217, 4520	113, 3376（石川左内） 113, 5378（植村音三郎）	
寄居新組村	110, 4720	110, 4699	113, 5376（朝比奈織之丞） 376, 3530（代官木村飛騨守支配所） 計 789, 0500	

【表F】男衾郡

村名	元禄郷帳	天保郷帳	旧高旧領（領主）	現市町村名
今市村	303, 5754	324, 2136	160, 1095（阿部主税知行所） 120, 19007（駒井長五郎知行所） 15, 1595（泉立寺領） 計 295, 45907	寄居町

巡見使が通行にあたり人馬負担を課した関連村々の石高は第3表の（A～F）のごとくである。

（前号に続く）

三月六日

一、妙見神主藺田左衛門らも、我々御陣屋御会所二罷出候節居合七、右同断口上二被相頼候

同

一、広見寺ら使僧ヲ以右同断

同

一、金仙寺和尚被参、是又右同様被相頼候

一、三月七日当郷名主中江申談、左之通取調書付出来候、且又御料所御巡見御方様天明年中八大野原村ら寺尾村江御通り被成候得共、今度八何方御通行被成候哉難計候二付、横瀬村ら境ら武之鼻迄并下町端横町ら道場夫ら爪龍寺前迄之道筋道中通行致候筈一同申談候事

御尋二付乍恐以書付奉申上候

一、公儀二御附札二御代々御位牌所有之哉之事

但公儀ら御免許を受御位牌奉安置候

向之義二而、不表立奉安置候向之義二者無之候

此義当村^二者 無御座候

一、公儀 御関所有之哉之事

但公儀手形歟、御領主手形歟之事

此義当村^二者 無御座候

一、公儀 御制札^并高札何ヶ所之事

但御領主高札写可被差出候

此義当村^二 御制札尅ヶ所御座候

一、御朱印地寺社数^并除地之事

此義当村^二左之通御座候

妙見社領

御朱印五拾七石

神主

蘭田左衛門持

今宮社領

御朱印拾石

修験

今宮坊持

御朱印拾石

禪宗

見寺

除地三反三畝拾歩

禪宗

仙寺

除地尅反九畝廿四歩

禪宗

慈眼寺

除地尅反六歩

禪宗

見東院

除地四畝四歩

禪宗

少林寺

除地三畝六歩

禪宗地蔵院

除地壹反壹畝廿壹歩

天台宗常樂寺

除地壹反八畝歩

真言宗西光寺

除地田拾貳歩
畑貳畝廿四歩

十二天社
百姓勘次郎持

除地壹反六歩

山王社
百姓孫助跡持

除地貳畝拾貳歩

丹生社
同久右衛門持

除地四畝歩

稻荷社
同勘次郎持

除地貳畝歩

天神社
同万蔵持

除地四畝歩

天神社
同西光寺持

除地貳反壹畝拾歩

阿彌陀堂
百姓八十七
龜次郎持

除地貳畝拾貳歩

阿彌陀堂
半七持

除地貳拾八歩

地蔵堂
慈眼寺持

除地三畝歩

虚空蔵堂
龜蔵持

除地七畝步

阿弥陀堂

長生院持

除地八畝拾貳步

札所拾貳番觀音堂

野坂寺持

除地壹畝拾八步

同拾三番觀音堂

慈眼寺持

除地六畝廿四步

同拾六番觀音堂

西光寺持

除地壹反三畝拾四步

同拾七番觀音堂

丹生隼人持

一、切支丹^并類族之事

此義^二当村^三無御座候

一、孝人有無之事

此義^二当村^三無御座候

一、郡^并村名之事

此義^二武州秩父郡大宮郷^三御座候

一、金・銀・銅・鉄・錫・鉛山之事

此義^二当村^三無御座候

一、林山有無之事

候
此義^二御林山無御座候、^右先年御巡見之節領主之山林少々御座候^与記有之候、如何之義^二御座候哉相弁不申候

一、巢鷹有無之事

此義当村^二無御座候

一、百姓飢人有無之事

附手当之事

此義当村^二無御座候

一、人別毎年御改相成候哉之事

此義毎年三月中宗旨五人組御改御座候

一、新地・荒地有之事

御附札^二

但新地之義^者、天明之度御巡見之節^〆村高相増候分^者新地^二相定候

此義当村^二無御座候

一、御預人有無之事

此義当村^二無御座候

右十四ヶ条之趣御書付を以御尋^二付取調候処、書面之通相違無御座候、以上

御領分大宮郷

名主

紋九郎印

天保九戌年三月

峯八同

半次郎同

源四郎同

四郎右衛門同

準平同

勇太郎同

久保市郎兵衛同

吉田伊平 太同

松本宗左衛門同

御代官所

一、御通行筋村々[△]も右書付昨日出候処、認方不^二宜^一付直し相置、今七日迄追々出渡候

一、三月八日御代官稻垣新八様御陣屋^江御着被成候、尤三沢村御巡見御宿之御見分被成候旨

一、同日伊藤升次郎様^二も右^二付^三三沢村迄御越、御一日御見分有之、御同道^二御陣屋^江御歸り被成候

一、大宮郷・下影森郷・上影森村・久那村・上田野村・日野村・白久村・大野原村・黒谷村・三沢村右拾ヶ村十

四ヶ条御尋書付取揃、同日升次郎様[△]差上候

一、三月九日御代官伊藤升次郎様・稻垣新八様御両人^二御手附齋藤弥右衛門殿御召連、当町御宿三軒御普請所再

御見分有之、我々儀も御案内旁罷出候、御昼食^者我等方^二差上^一候

一、同夜伊藤升次郎様[△]左之通り御書面来候御宿所御手入之儀弥若狭^江被 仰付候旨同人只今罷出候付、直^二申聞

候、左様可被相心得候、且又先刻御用状到来之所、弥六日江戸御発駕、来月四日・五日頃爰元御通行之旨申越候、若狭^江も右之趣申聞、せり立置申候桶類之儀も木品計村々差出し、手間料^八、御入用被下候積にて可申付旨且又御下知濟^二相成申候、委細之儀^者明日可申達候へ共、先ツ右之趣申遣候、早々以上

一、三月十日御会所罷出候所、御代官衆^者被仰聞候、御宿之儀^者先年^者振合を以申達候処、今度^者御人数御一方様^二御上下四拾人程も御越被成候旨、左候得^者若御通行之時分蚊屋釣候様^二も有之候得^者、逆も老軒^二而^者差支可相成哉^二存候間、御下方分下宿老軒宛申付候積相成候間、左様相心得可申旨、尤明日御手附斎藤弥右衛門殿御差遣シ下宿御見立被成候趣^二御座候

一、同日白久村高橋皆出来^二付御見分被下度旨村役人願書持參候間、取次差上候

一、同日桶屋源兵衛・幾四郎^江、桶類木品出来候ハ、早速仕事相始候様申達候

一、同十一日我等儀御用番之処、御宿支度^二而^者諸用多^二付申談、同役加藤四郎左衛門今日^ハ出勤御用番相勤候、尤

御代官様^ハも右様可致旨昨日被^二仰聞候

一、御宿峯八・宗兵衛^江も、下宿^者別段被^二仰付旨、申聞置候様、御代官中^ハ被^二仰聞候付、右兩人呼其段申達候

一、御手附弥右衛門殿下宿見分^二被出候付、案内^二名主久保市郎兵衛差出^ス

一、同十二日齊戸^江、番屋取立之儀^并火消道具之事^二付、左之通廻状出^ス

覚

当郷入口斎戸番屋前々在来候処、当時無之候、然^ル所御巡見様近日御通行^二付各申談、前々仕来り候其所々^二而^者申談、早々取立候様可被取計候

一、火消道具手入修覆之儀、先月中出来相届候様申達候、出来候ハ、其段可申出、若いまた出来不申候ハ、来
ル十五日迄出来候様急度可被申付候、いつれ十五日_二ハ否_一可被申出候、已上

戊 三月十二日 松本宗左衛門

上宮分
与頭 半兵衛殿

中宮分

同 寅藏殿

同 安太郎殿

下宮分

同 弥吉殿

大畑ケ

同 龜藏殿

阿保

同 佐右衛門殿

柳同田

同 平吉殿

金室

同 八十七殿

同 桜木

同 伝右衛門殿

同 勘右衛門殿

名下被受印早々順達、留_レ可被返候、已上

一、三月十三日与頭寅藏罷出、齋戸番屋之儀夫々承合処、物福寺入口_二先年有之候趣_一付早速取立可申旨、且又火

消道具之儀も申談置候間、来^ル十七日頃^ニ八出来可申旨被聞候
一、同十四日左之名面之者共一同御陣屋^江被差出、御巡見^ニ付夫々御用被 仰付、大切^ニ可相勤旨被 仰渡候、役
割御書付左之通

覚

此度御巡見使様御通行、三沢村御休、大宮郷御泊^ニ付

御休 三沢村 名主 十次郎

安藤治右衛門様

御泊 大宮郷 割役 松本宗左衛門

馬場大助様

御休 三沢村 百姓 岡右衛門

内藤源助様

御休 大宮郷 与頭格 宗兵衛

右之通御宿所申付候、依之先格之通一同前日御泊迄羽織袴着用御機嫌相伺御人数多少承之可罷歸候、尤当日
麻上下着用、三沢村^者村境迄、大宮郷八町入口迄夫々御迎^ニ可罷出候、且御立之節も准右御見送可致候

安藤治右衛門様

三沢村 百姓 初吉

馬場大助様 同村
内藤源助様 真言宗 医王寺

右之通御休所下宿申付候

安藤治右衛門様

大宮郷
女本人
さ と

馬場大助様

同郷
百姓
弥兵衛

内藤源助様

同郷
持高名主左
団次

右之通御泊所下宿申付候

大宮郷

名主
勇太郎

横瀬村

名主
勘右衛門

同
源右衛門

右^著三沢村^江前夜^江の相詰、人馬^并賄方世話いたし、安藤治右衛門様御宿松本宗左衛門方^江御案内可致候、勇太郎儀八、翌朝御発駕之節、大宮郷の白久村・贄川村境迄御案内可致候

大宮郷

名主
準平

山田村

名主
恭次郎

大野原村

名主
九兵衛

右同断馬場大助様御宿宗兵衛方^江御案内可致候、準平義^者、翌朝御発駕之節、大宮郷^方白久村・贄川村境迄御案内可致候

大宮郷

名主 半次郎

黒谷村

名主 寅次郎

同村

与頭 定六

右同断、内藤源助様御宿峯八方^江御案内可致候、半次郎義^者翌朝御発駕之節大宮郷^方白久村・贄川村境迄御案内可致候

大宮郷

名主 四郎右衛門

同 源四郎

与頭 大助

同 直太郎

右^者大宮郷^方斎戸橋迄罷出御案内いたし、其後大宮郷^二_而夜廻り等節々相勤、且翌朝御発駕之節も村境迄御案内可致候

同郷

割役格名主

同 吉田伊平太

同 久保市郎兵衛

与 頭 右衛門

同 善 右衛門

右^者町入口迄、名主八羽織袴着用、組頭八羽織股引^{二面}御迎^二罷出、且翌朝御発駕之節も町外レまで御見送可致候

久那村

名主 頼兵衛

下影森村

名主 貞助

別所村

与 頭 九兵衛

久那村

同 嘉四郎

右^者御宿松本宗左衛門方^江相詰、御賄方を始諸事世話可相勤候

別所村

名主 桂助

上田野村

名主 又右衛門

山田村

名主 関之丞

与 頭 重左衛門

右^著 御宿宗兵衛方^江 相詰、右同断

横瀬村

割役格名主

嶋田可左衛門

栃谷村

名主

国次郎

横瀬村

与頭

金治

久那村

与頭

仁兵衛

右^著 御宿峯八方^江 相詰、右同断

上田野村

名主

広吉

日野村

名主

平左衛門

白久村

与頭

清八

右^著 大宮郷^江 前夜^江 相詰人馬世話いたし、大宮郷^江 白久村・贄川村境迄御案内可致候、右御案内之儀八大宮郷
名主 勇太郎申合可相勤候

白久村

名主

重右衛門

上影森村

名主

重次郎

白久村
与 頭
五右衛門

右^著大宮郷^江前夜^江の相詰人馬世話いたし、大宮郷^江の白久村・贄川村境迄御案内可致候、右御案内之儀^著八大宮郷
名主準平^江申合可相勤候

浦山村

名主
五兵衛

上田野村

与 頭
喜右衛門

白久村

与 頭
孝左衛門

右^著大宮郷^江前夜^江の相詰人馬世話いたし、大宮郷^江の白久村・贄川村境迄御案内可致候、右御案内之儀^著大宮郷
名主半次郎^江申合可相勤候

横瀬村

与 頭
権左衛門

与 頭格
安左衛門

右^著下宿さと方^江相詰、御賄方を始諸事世話可相勤候

同村

与 頭
治右衛門

百 姓
五右衛門

右^著下宿弥兵衛方^江相詰、右同断

同村
与頭格
伝右衛門
百 姓
平 五郎

右^者下宿左団次方^江相詰、右同断

安藤治右衛門様

大宮郷
名主

吉田伊平太
控家

馬場大助様

同郷

百姓
曾兵衛

内藤源助様

同

武兵衛

右之通人馬寄宿申付候

大宮郷

升屋
利兵衛

右^者万売物問屋申付候

同郷

名主格与頭
平 吉

右^者升屋利兵衛方^江相詰取締可致候

同郷

与頭
六左衛門
同
平兵衛

右^著 贄川村^江 御先触持參可致候、白久村組頭耆人同道可罷越候

横瀬村

割役

加藤四郎左衛門

右^著 大宮郷^江 出張、諸事御用向相勤可申候

大宮郷

妙見社領

本道外科兼

三沢村御休^江

佐野 玄 銅

同郷

本道

久保 玄 行

大宮郷御泊^江

外科

佐野 玄 銅

右之通夫々罷出、病用有之節可相勤候

以上

戊 三月十四日

覚

一 高式千五百四拾石

安藤治右衛門

一 紋所^{下り藤之丸}
七ツ引

但、合印藤蔓

一 公儀御精進日之外精進日十一日

一 繼人馬

人足四拾人程
馬九疋

但、御朱印人馬共

一 率馬前々之通無御座候

一 供人数伺之通四拾人被召連候

内 用人

式人

給人

式人

待

七人

徒士

五人

足輕・仲間・又者共式拾四人
此外品寄老兩人也被召連候

用

人 長江三郎兵衛

人 龜田雄助

給

人 鈴木仲右衛門

石井周助

一 高式千石

馬場大助

一 紋所釘貫
笹籠胆

但、合印輪^二拍子木繫

一 公儀御精進日之外精進日十一日

一 繼人馬

人足四拾貳人
馬九疋

但、御朱印人馬共

一 率馬先格之通無御座候

一 供人数伺之通四拾人被召連候

内 用人

貳人

給人

貳人

侍

七人

徒士

五人

足輕・中間・又もの共廿四人
但此外品ニ寄忝両人過人も被召連候

用人

仙石伊兵衛

泉田多門

給人

新井万六

加勢要之丞

一 高八百五拾石

内藤源助

一 紋所下り藤之丸
花菱

但、合印山道

一 公儀御精進日之外精進日十一日

一 継人馬 人足三拾七人
馬五疋

但、御朱印人馬共

一 率馬先格之通無御座候

一 供人数伺之通式拾七人

内 用人

式人

給人

式人

侍人

六人

徒士

三人

足輕・中間・又もの共拾四人

外拾人程過人被召連候

用人

相 良 進 平

岡 田 太 作

給 人 桃 井 儀 八

鷹松弥左衛門

一 今十四日、加藤四郎左衛門〔横瀬村・割役〕御通筋村々之内大破いたし見苦敷家有之候ハ、取形付候積之分ハ早々形付、又

ハ修覆いたし候分も早速可致、容易ニ難出来ハ困致候共いつれ御目懸リ不相成様取計可申旨村役人共江細々申達

候

一 御宿三軒門前箱番所番人御雇足輕九人、外ニ横町入口辺江立固として同者人御差出被成候付、右雇人村々江申談

差出し可申旨此間中御代官様被 仰聞有之候ニ付、是又今日四郎左衛門江村々江申談取極置候、三沢村御休所箱

番所等江御差出し被成候御雇足輕も有之候得共、是者同村江直ニ被 仰付候由ニ御坐候

一 御宿三軒^江相詰、賄方其外世話可致旨被 仰付候村役人中来^ル廿日我等方へ出会、宿々之ものも立会、御入用諸道具類取調、三軒共品々無甲乙様可致旨申談置候

一 三月十六日、伊藤升次郎様白久村高橋出来見分^二御越被成候

一 我等儀当日御迎罷出候節、雨天^二候ハ、傘さし候儀^并着類ハ絹太織敷又ハ木綿^二可仕哉、且又帯刀ハ如何可有之哉之旨先日相伺置候処、忍表^江御聞合被成、今日御用状序^二申来^リ候ハ、雨天之次第^二も有之候得共大雨^二候ハ、傘さし候^而も可然由、着物ハ土地^二出来候絹太織^着着し候^而も是又可然旨、帯刀^者不相成由稲垣新八様^ハ被 仰聞候

一 御巡見様方^江差上候御賄方之儀、御上下共一汁壹菜之由先月被 仰聞候処、
（小田原藩主大久保加賀守忠愨^一一三、一二九石）
小田原様

（川越藩主松平大和守齊典^一五〇、〇〇〇石）
川越様
（館林藩主井上河内守正春^一六〇、〇〇〇石）
館林様

等^江御聞合被成候処、小田原様^二者上分一汁三菜・

中式菜・下一菜、川越様^二而者上三三菜・中式菜・下式菜、館林様ハ上中下共一汁壹菜^与申儀^二候、
（忍藩^一一〇〇、〇〇〇石）
此方様

^二而者 小田原様之通^二被遊候付、其御積り^二被 仰付候旨、尤前々ハ御料理人忍表^ハ被遣候処、今度^者当所料理屋原

嶋久七^江請負^二候 仰付候^而 先日代積り差上候処、尚又御賄仕様替り候^二付代積り被 仰付候由、稲垣新八様被

仰聞候

一、夜具之儀侍分ハ絹布之御積り四拾人前損料^二借用被成度先日被 仰出、加藤四郎左衛門^ハ村々^江相尋、手当

も出来有之候処、御問合御巡見様^江御座候処、用人衆迄夜具持参^二付絹布^者御止被成、不残木綿^二相成候付夫丈余

分^二相成候様御達先日有之、是又其積^二四郎左衛門^ハ村々^江申聞置候、然^ル処小田原様其外^江御聞合被成候処、川

越様杯著縮緬二而一御用意其外も絹布二付一、尚又最初之通木綿分相減、絹夜具差出候様被 仰聞候

一、人馬割書付加藤四郎左衛門方左之通

覚

三沢村江詰人馬左之通

馬五拾三疋

人足三百人

内駕籠貳拾五挺

此内割

一、馬拾八疋

横瀬村

人足七拾七人

内かこ六挺 三沢村江持参

一、人足貳拾人

定峯村

内かこ壹挺 右同断

一、人足拾三人

栃谷村

内かこ貳挺 右同断

右人馬印青札御本陣松本宗左衛門所迄御案内并人馬肝煎大宮郷名主勇太郎并横瀬村名主勘右衛門・同源右衛門
相勤可申候

一、馬拾疋 山田村

人足七拾弐人

内 かこ四挺 右同断

一、馬八疋 大野原村

人足貳拾五人

内 かこ四挺 右同断

右人馬印白札、御本陣与頭格宗兵衛所迄御案内^并人馬肝煎大宮郷名主準平・山田村名主泰次郎・大野原村九兵衛相勤可申候

一、馬七疋 黒谷村

人足四拾三人

内 かこ貳挺 右同断

一、馬五疋 栃谷村

人足貳拾四人

内 かこ三挺 右同断

一、人足貳拾六人 大野原村

内 かこ三挺 右同断

一、馬三疋 定峯村

一、馬三疋

山田村

右人馬印赤札、御本陣名主峯八所迄御案内^并人馬肝煎大宮郷名主半次郎・黒谷村名主寅次郎・同村与頭定六相勤可申候

大宮郷寄人馬左之通

馬五拾三疋

人足三百五拾人

内
駕籠五拾挺

此内割

一、馬六疋

下影森村

人足三拾四人

一、馬六疋

上影森村

人足三拾三人

一、馬六疋

横瀬村

人足六拾六人

右人馬印青札、御本陣松本宗左衛門所^江賛川村迄御案内、大宮郷名主勇太郎・上田野村名主広吉・日野村名主平左衛門・白久村与頭清八、右勇太郎^江申談人馬肝煎共相勤可申候

一、馬拾疋

久那村

人足六拾式人

一、馬六疋

白久村
猪鼻共

人足拾七人

一、馬貳疋

人足拾五人

一、人足拾六人

別所村

右人馬印白札、御本陣与頭格宗兵衛所[△]費川村迄御案内、大宮郷名主準平・白久村名主重右衛門、上影森村名主重次郎・白久村与頭五右衛門、右準平江申談人馬肝煎共相勤可申候

一、馬四疋

別所村

一、馬四疋

日野村

人足貳拾四人

一、馬九疋

上田野村

人足五拾八人

一、馬壹疋

人足貳拾五人 猪鼻共

白久村
猪鼻共

右人馬印赤札、御本陣名主峯八所[△]費川村迄御案内、大宮郷名主半次郎・浦山村名主五兵衛・上田野村与頭喜右衛門・白久村与頭幸左衛門、右半次郎^江申談人馬肝煎共相勤可申候

右^著仕先例 御巡見様御通行^二付、人馬割合^并御案内人其外人馬肝煎等迄書面之通村々^江相達^シ申候^二付、大宮郷^二ても御案内^并人馬肝煎相兼候儀^二付為心得組々^江相達置、右割合之通夫々申談御差支^二不相成様御取計可被成候、已上

戊 三月十六日 加藤四郎左衛門

松本宗左衛門殿

右之趣各承知被成勇太郎殿・準平殿・半次郎殿^二者^{得与}相心得置候様可被成候、已上

戊 三月十七日

松本宗左衛門

吉田伊平 太殿

久保市郎兵衛殿

勇太郎殿

準平殿

四郎左衛門殿

源四郎殿

半次郎殿

峯八殿

紋九郎殿

与頭格
宗 兵 衛殿

此廻状名下被受印披見日限相記最寄く、早々順達留る相返可被成候

一、三月十八日当郷御制札御墨入出来^二付、御陣屋^五に請取歩行番^二為持遣候、名主源四郎七話いたし相懸候

一、同十九日下町峯岸屋^五左之書状届来候、寄居村名主彦兵衛方より

一筆啓上仕候、漸長閑^二相成候得共御家内様御平安之由珍重奉存候、然^者下拙儀

御巡見様御取扱之儀^二付、安藤様御知行所比企郡玉川郷^江罷越、卯兵衛殿^与申仁相頼候処、鉢形迄八右之仁

罷出候様被 仰渡候付、鉢形^江者 罷出候趣、猶又下拙共方へも相頼万事取計相頼申候、夫^二付^而者 殊^二寄候得^者

其御町方迄も罷出候様被 仰付候義も難計奉存候間、若御右様被 仰付罷越候^而者 其御町方思召も如何^二付、

下拙より其御町方へ右之段申上呉候様被相頼候^二付^以免札申上候、若右仁御地へ罷出候て止宿等之儀宜相

頼候、尤右之仁參候得^者御手都合宜儀も可有御坐候間、若被參候て無御遠慮御取計方御相談可被成候、先

八右御案内迄^二如斯^二御坐候、余八於拝眉候恐惶謹言

三月十九日 岩田彦兵衛

松本宗左衛門様

貴床下

一、三月廿日御宿賄方諸事七話被 仰付候もの一同我等方へ出会いたし、諸道具類入用之分調方相談^二付、兼^而御

代官様御取調置被遊候左之御書立御渡被成候付、此之内○印之分御上様^五御渡被下候旨、残り之分宿々^二有品^者

宿^二借用、其外八賄方七話人諸所^五借り出候筈^二候、尤加藤四郎左衛門^并宿々一同^二而 申談候右御書立写左之通

但、上御宿老軒分也

- 一、御熨斗三宝 壹
- 一、御朱印台 一組
- 一、御宿札 壹枚
- 一、御刀掛 壹
- 但、上分
- 一、刀懸 二
- 但、腰懸
- 一、刀懸 壹
- 但、十四腰懸
- 一、刀懸 壹
- 但、十腰懸
- 一、硯箱 壹
- 上之分
- 一、硯箱 三
- 但、下
- 一、奉書紙 一折
- 一、掛物 壹枚
- 上
- 一、毛氈 壹枚
- 一、菓子盆 壹
- 一、茶碗 廿壹
- 内上 壹ツ
- 一、腰高茶台 壹
- 一、茶台 十

- 一、御鼻紙台 壹ツ
但、押かね紙共
- 一、上草履 二足
- 一、御手水桶 壹ツ
柄杓共
- 一、風呂桶 貳ツ
内上 壹ツ
- 一、御湯溜桶 壹ツ
柄杓共
- 一、御水溜桶 壹ツ
- 一、御踏台 壹ツ
- 一、御手拭 壹筋
- 一、御手水盥 三ツ
内上 壹ツ
- 一、漱茶碗 三ツ
内上 壹ツ
- 一、かね湯とう 壹ツ
- 一、塩入 壹ツ
- 一、楊枝 壹本
- 一、塩入小皿 貳ツ
- 一、楊枝 十六本
- 一、御口拭布 壹筋

一、夜具 十八人前

内 九人前絹布
十人木綿

一、屏風 壹双

一、三組重箱 壹組

一、重台 壹ツ

○ 一、土瓶 壹ツ

△

下宿老軒分左之通

一、懸札老枚

一、硯箱 壹ツ

一、茶碗 廿六

一、茶盆 五枚

是給仕盆兼

一、火鉢 三ツ

一、煙草盆 五ツ

一、家具 廿六人前

一、飯櫃 三ツ

一、手塩皿 廿六

- 一、湯とう 三ツ
- 一、菓子鉢 三ツ
台共
- 一、土瓶 貳ツ
- 一、行燈 三ツ
- 一、燭台 三ツ
- 一、上草り 一足
- 一、風呂桶 壹ツ
- 一、手桶 壹ツ
柄杓共
- 一、手水盥 壹ツ
- 一、漱茶碗 壹ツ
- 一、塩入小皿 壹ツ
- 一、木綿夜具 廿六人前

一 三月廿一日寄居村名主彦兵衛方へ左之通返書相認下町峯岸屋^江届方頼遣又尤昨日彦兵衛方^江来候書面御代官様へ懸御目候処当所之儀者萬事領主役人取扱候趣申遣候様内々被仰聞候

貴札致拜見候春暖之節^二候得共弥御安康被成御坐珍重奉存候然^ハ 御巡見様御取扱之儀安藤様御知行所比企郡玉川郷^江御越卯兵衛殿^与申仁御頼被成候処鉢形迄^ハ右之仁罷出候様被仰渡候付同所^江者罷出候趣猶又其御村方^へも御頼萬事取計御頼被成候旨夫^二付^ハ当町方迄も罷出候様被仰付候儀も難計候由若右様被仰付候^而御越被成候^而も当町方之心得も如何^二付^ハ貴躰様^ハ当町^江右之段御申達呉候様被相頼候旨被仰越若右之仁当所^江參り止宿等之儀宜取計可申旨尤右之仁被參候へ^ハ手都合宜儀も可有之由是又被仰聞忝奉存候右仁被參候^ハ止宿之儀^ハ何様^ニも御セ話可致候御巡見様御通行之節当所之儀者領主役場^ハ萬事不殘御セ話有之御宿^ハ宅を貸し候而已^二御坐候間此度被仰越候儀も御書面を以早速申立置候尤惣^而先格之儀御先領^ハ御書送^リ有之右振合を以諸事被取計候儀^二御通行前^ハ懸り役人忍表^ハ追々被參候趣^二御坐候尤御宿^ニ相成候家々疊表替^ハ其外修覆手入を始諸道具且御賄等迄萬端領主懸^リ大切^二取扱候間^ハ少し之儀も一々村役人^ハ相伺候義^二御坐候間此段御序之節御咄申可被下候先^ツ右貴答迄早々如此^二御坐候恐惶謹言

三月廿一日

(大宮郷割役名主)
松本宗左衛門

(寄居村名主)
岩田彦兵衛様

三月廿三日 晴

一 御料所御巡見様来^ル廿五六日頃当所御泊^リ御越被成旨三沢村医者小川村^二承^リ歸^リ候旨三沢村名主十次郎方^ハ為知来^リ候付右之趣御代官様^江申上候処兼^而被仰付置候宿大森重左衛門名主四郎右衛門久保市郎兵衛へも其段申聞

用意為致候様被仰聞^二付右三人^江申達候処四郎右衛門方家内病人有之候^二付我等方普請も出来候得者引請致
呉様頼^二付御陣屋へ伺之上四郎右衛門方代り我等引受重左衛門様も無抛義有之候趣同人も^{大宮郷名主}峯八方ヲ頼同
人引受候趣^二双方^ハ申出候

一同日申下刻左之通達書大の原村^ハ継来候

尚々此廻立申刻付^二御順達被成候

急廻章を以申上候各々様方益々御勇健奉珍重候然者 御巡見様御通行廿五日当村御泊り廿六日大宮町御泊り
御昼飯者三沢村御昼飯尤御弁当御持参無之候間用意可致様此段当村^ハ達し候様被仰達候間則御達申上候左^二
御心得御支度可被成候右御達申上度如斯^二御座候早々已上

戊 三月廿五辰上刻 安戸村

名主 善兵衛印

三沢村

御役人中様

大宮町

松本惣左衛門様

一同夜名主中へ申談候処我等峯八御宿仕候得者市郎兵衛方も宗兵衛^{大宮郷名主}代り頼候方可然旨^二同人^江も申談其通^リ被成
候

一御案内齊戸^{余戸橋}迄名主与頭兩人宛^二而可然旨尤御三方様御一緒^二無之節者別々名主与頭耆人宛^二而附候様用意^二名主三人
与頭三人罷出居別々被成候ハ御一方様へ名主与頭耆人宛^二而御案内いたし候様且又御宿三軒^江御着之上者右御案
内之者^者御宿^二罷在諸事セ話いたし候筈取極候

齊戸江罷出居夫^ル
一名主 久保市郎兵衛

御案内可致候

(割役名主)
吉田伊平太組

与頭耆人

一 右同断
宗兵衛方へ

一名主 半次郎

源四郎組

与頭耆人

一 右同断
峯八方へ

一名主 紋九郎

準平組

与頭耆人

一 御宿三軒^江相詰諸事セ話人

一 松本宗左衛門方へ

名主

四郎右衛門

一 宗兵衛方へ

同

勇太郎

一 峯八方へ

吉田伊平太

一名主四郎右衛門組与頭直太郎儀明朝出立安戸村名主善兵衛へ参り廿四日御泊り之所承り其所^江参り御人数^并人馬
手当其外諸事聞合廿五日夜迄帰り候様いたし可然旨申談候

一直太郎呼右之趣申聞同人明早朝出立候筈尤夜中も帰り候儀^二付供耆人連參候様申談候

三月廿四日晴

一直太郎夜七ツ時頃帰り同人安戸村^ル善兵衛方へ参り承候処同人儀熊谷宿^江罷出様子承り候処同所^并外御泊々共左
之趣之由直太郎覚書いたし来り候其俣写

今市[△]安戸宿

一 御三方御上下七人づゝ、

(伊奈)

半左衛門様御手代

上下八人づゝ、

(山本)
大膳様御手代

右御宿五軒御座敷積十三つぼ

御まかない夕八五菜朝三菜

御酒も上下共^ニ差上申事

右肴八三ツ物位なる事

もりすな間別

本陣三人上下^ニ出向^ニ外村役人はかま夜具ハ御持参中よりハもめん^ニ用意ゆとの式ヶ所づゝ、

御案内明日の御宿迄中の村々共^ニ

△

一直太郎安戸村善兵衛方^ニ書付^ニ賁候由御料所巡見様方^并今度者伊奈半左衛門様御手代山本大膳様御手附様御附添
御通行被成候旨御性名左之通^(姓)

御勘定

中尾[△]太右衛門様 御上下七人

支配御勘定

芳賀[△]市三郎様 同

西丸御徒目付

小野作之丞様 同

伊奈半左衛門様御手代

武藤彦次郎様

山本大膳手附

岡田正助様

一直太郎聞合来り候趣御陣屋御代官御兩人様江も委細申上候

一名主勇太郎半次郎四郎右衛門参り合候付先刻直太郎罷歸候趣委細申聞相談之上明日安戸村御泊り迄久保市郎兵衛半治郎兩人御機嫌伺として罷出尚又様子柄得与承り夜中罷歸候筈尤四郎右衛門江市郎兵衛江者申談候筈二候
一同帰り無程市郎兵衛方江弥安戸江同人も罷越候付駕籠出し呉候様申来り貸遣し是者夜中帰り二付兩人替りく
乗り候様二駕籠尅挺相立候様先刻是又一同申談候事

三月廿五日晴

一伊奈様山本様御手附御手代衆之御宿名主四郎右衛門江申談持高名主左団次并中川さど方二取極候旨四郎右衛門申聞候

一名主四郎右衛門方江申達伝馬三疋二而我等方并峯八宗兵衛右三軒江盛砂二いたし候砂四五駄宛為得候事

一御宿札三枚竹共大工若狭方（麻田屋共）へ拵へ明朝迄二差出候様栄吉ヲ以申遣候処相談之上栄吉儀明朝迄二こしらへ持参致候旨申出候

一私料所御巡見使御通行之節忍表江御勘定奉行栗田十兵衛様御越被成左之通書付御差出被成候付相心得居之様被仰聞御代官様江御見世被成候書付左之通

覚

武蔵国男衾郡

立原村

一 御制札壺ヶ所

不受不施日蓮宗

城立寺

一 御朱印七石

一天明八申年已来当村^二新高式斗四升式合御座候

同国秩父郡

風布村

一 領主之林山三ヶ所御座候

同国同郡

三沢村

一 御制札壺ヶ所

一 領主之林山四ヶ所御座候

一天明八申年已来当村^二新高五石式合御座候

同国同郡

黒谷村

一天明八申年已来当村^二新高式拾四石式斗四升五合御座候

同国同郡

大野原村

一 御制札壺ヶ所

一天明八申年已来当村^二新高五拾式石八斗壺升六合御座候

同国同郡

大宮郷

一 御制札壺ヶ所

一 御朱印寺社三ヶ所

内

妙見宮社領

御朱印五拾七石

神主 菌田左衛門持

今宮社領

御朱印拾石

修験 今宮坊持

御朱印拾石

禪宗 廣見寺

一天明八_申年以來当村_二新高四拾六石五合御座候

右村々

一 公義御代々 御位牌無御座候

一 公儀御関所無御座候

一 除地無御座候

一 領主高札無御座候

一切支丹_并類族之者無御座候

一 孝人無御座候

一金銀銅鉄錫鉛山無御座候

一公儀御林山無御座候

一巢鷹之儀一向無御座候

一百姓飢人無御座候

一百姓人別毎年忝度宛相改申候

一荒地無御座候

一御預人一向無御座候

右今日御通筋村々書付差上申候 已上

天保九^戊年四月日

御名家来

栗田十兵衛印

覚

武藏国秩父郡

影森村

一天明八^申年以来^二当村^三新高八拾^一石五升御座候

一御制札^一壺ヶ所

一天明八^申年已来^二当村^三新高

同国同郡

拾^一式石三斗七升七合御座候

久那村

一 御制札沓ヶ所

同国同郡

上田野村

一 領主之建山沓ヶ所御座候

一天明八^甲年以来^甲当村^二新高弐拾石三斗六升七合御座候

同国同郡

日野村

一 御制札沓ヶ所

一 領主之建山御座候^{峯境}外^ハ御料所大瀧村持^二御座候

同国同郡

白久村

一 御制札沓ヶ所

一 領主之建山御座候^{峯境}外^ハ御料所新大瀧村物^二御座候

一天明八^甲年已来^甲当村^二新高弐石沓斗四升七合御座候

右村々

一 公儀 御代々

御位牌所無御座候

一 公義 御関所無御座候

一 御朱印地寺社^并除地無御座候

一 領主高札無御座候

一切支丹^并類族之者無御座候

一 孝人無御坐候

一金銀銅鉄錫鉛山無御座候

一 公義御林無御座候

一 巢鷹之儀一向無御座候

一 百姓飢人無御座候

一 百姓人別毎年忝度宛相改申候

一 荒地無御座候

一 御預人一向無御座候

右明日御通筋村々書付差上申候 已上

天保九^戌年四月日

御名家来

栗田十兵衛印

一 同夜七ツ半頃名主久保市郎兵衛半治郎安戸村^ハ罷歸^リ申候者昨日直太郎承^リ来候趣^ト格別相違いたし全善兵衛存寄^ニ申聞候事と相聞へ候、且又廿七日者上田野村御昼食贄川村御泊り之由同村^ハ八村役人安戸迄聞合^ニ罷出候得共、上田野村へハ早速為知置候様被仰聞候旨依之早速申遣候様^ニ右之趣書付相認持參候、人足伝馬番市郎兵衛組^ハ差出候様被遣候処出方遅く彼是いたし候内、大野原村^ハ御先触繼来^リ候^ニ付一緒^ニ為持遣し但下影森村^江可繼之処、上田野村^江昼御賄之儀少も早く為至度^ニ付影森^江者跡^ニ申聞次之村^江罷出拜見いたし御請印可致旨村役人

呼申達候、且又同村^二而人馬繼可致咎之所間近之儀^二付戻候、上田野村迄^レ繼立可遣旨是又申談候

三月廿六日

一寅下刻大野原村名主九兵衛方^左之通繼來候

先触	中尾太右衛門内
	日下源之進
	芳賀市三郎内
	富山源兵衛
	小野作之丞内
	小田切卯之助

別紙

御朱印御証文写四通差遣条可得其意候

以上

戌三月

中尾太郎右衛門印

芳賀市三郎印

小野作之丞印

三月廿六日

一寅下刻大野原村名主九兵衛方^左之通繼來候

<p>先觸</p> <p>中尾太右衛門内 日下源之進</p> <p>芳賀市三郎内 富山源兵衛</p> <p>小野作之丞内 小田切卯之助</p>

別紙

御朱印御証文写四通差遣条可得其意候、以上

三月

中尾太右衛門印

芳賀市三郎印

小野作兵衛印

御朱印

人足式人馬三疋、從江戸武藏・上野・下野・常陸・下総国迄、上下^并於彼地御用中幾度可出之、是^者右国々御料所巡見為御用中尾太右衛門被差遣付^而、被下之者也

天保九年三月十七日

右宿中

中尾太右衛門・芳賀市三郎持參之御用書物長持式棹、從江戸武藏・上野・下野・常陸・下総国迄、上下^并

於彼地御用中幾度も急度可持参者也

三月 越前印

右宿中

人足式人馬三疋、從江戸武藏・上野・下野・常陸・下総国迄、上下并於彼地御用中幾度も可出之、是者右国々
巡見為御用芳賀市三郎罷越付而、相渡之者也

天保九戊
三月 越前印

右宿中

人足式人馬式疋從江戸武藏・上野・下野・常陸・下総国迄、上下并於彼地御用中幾度も可出之、是八右国々
巡見為御用西丸御徒目付小野作之丞罷越付而相渡之者也

天保九戊
三月 越前印

右宿中

覚

御朱印
一人足式人
右同断
一馬三疋

内式人疋者 人足四人代ル

御証文
一御用書物長持杵

右持人足

外

賃人足壹人

合人足七人

内

壹人 具足
四人 駕籠
壹人 兩掛
壹人 合羽籠

右者 御勘定中尾太右衛門分

御証文

一人足貳人

右同斷

一馬三疋

内貳疋者 人足四人_{ニ代ル}

右同斷

一御用書物長持壹棹

外
右持人足

賃人足壹人

合人足七人

内

壹人 具足
四人 駕籠
壹人 兩掛
壹人 合羽籠

右者 支配勘定中尾太右衛門分

御証文

一人足貳人

右同断

一馬式疋

内沓疋者 人足四人二代ル

右同断

一御用書物長持沓棹

外 右持人足

賃人足沓人

合人足七人

内 沓人 具足

四人 駕籠

沓人 兩掛

沓人 合羽籠

右者 支配勘定芳賀市三郎分

御証文

一人足式人

右同断

一馬式疋

内沓疋者 人足式人二代ル

外 賃人足三人

合人足七人

内 沓人 具足

四人 駕籠

沓人 兩掛

沓人 合羽籠

右者 御徒目付小野作之丞分

右^者御料所巡見為御用中尾太右衛門・芳賀市三郎・小野作之丞、明廿日鴻巢宿被致出立、別紙御村触休泊附之通^り通行被致候条、書面之人馬差出、雇人足之分八御定之賃錢請取之、無滯繼立可被致候、且渡船川越之場所^者前後宿村申合、差支無之樣可被取計候、尤休泊宿村^二而^者中尾太右衛門上下七人、芳賀市三郎上下七人、小野作之丞上下五人^二有之候間、銘々宿取置、御定之木錢米代^者所相場を以相払候間、有合之品を以一汁一菜相賄、馳走^ケ間敷儀決^而被致間敷候

右之通急度相心得、此先触早々繼送^り繼場村^二而^{可被相返候、以上}

三月十九日

小野作之丞内

小田切卯之助印

芳賀市三郎内

富山源兵衛印

中尾太右衛門内

日下源之進印

右宿村

名主
問屋
年寄
組頭

中尾太右衛門

村触

芳賀市三郎

小野作之丞

覺

一 今度我等共御料所巡見被 仰付、其宿村罷通候間、先達^而御触之趣急度相守、心得違無之樣可致候

一 於宿村^二休泊一村^三軒無之所^ハ、寺又^ハ村を隔候^而成共^不苦候、併程遠相成候^而^ハ御用弁も不宜候間、可相成^者程近^二可申付、尤見苦數分^者不苦候間、決^而取繕^テ間敷儀不仕、村中費無之樣可致候

一 休泊^二御定之通木錢米代請取之、尤一汁一菜之外堅差出申間敷候、勿論飯米代^ハ所相場^ヲ以請取可申候

一 家來共、万一心得違^二非分之儀申懸、私欲^ケ間敷儀候歟、我俣等有之候^者、不穩置早々可申聞候、尤少々之品たり共村方^ハ音信等堅仕間敷候

一 我等共初、家來等^二至迄入用之品相調候節^ハ、相当之代錢請取可申候

一 大風雨^二逗留有之候節^ハ勿論、御用中家來之者^江村役人其外用向之外猥^二出會申間敷候、尤酒肴菓子等何品^二も一切差出之儀可為無用候

右之通急度相心得、村役人印形致、早々順達、留村^ハ我等共江可相返候、已上

戌三月 中尾太右衛門印

芳賀市三郎印

小野作兵衛印

松平下総守領分

武藏国崎玉郡行田町

休 名主 恒三郎印

年寄 集右衛門印

与頭 源兵衛印

外五拾貳ヶ所略之、不写

泊 同断 同郡大宮郷 名主 宗左衛門印

年寄 吉助印

与頭 茂吉印

右^者 拝見之上、卯上刻上田野村^江 継送^り候、尤外^二我等方^左も御宿等之儀、別紙^ニ申遣^ス

一辰下刻大野原村^左之五通継来候

先触 山本大膳手附 岡田正助

覚

一人足耆人 但兩掛耆荷

右^者 我等儀就御用、明廿六日朝武州秩父郡安戸村出立、同州児玉郡児玉村迄罷越候条、書面人足差出、支配所外ハ御定賃錢請取之、諸事差支無之様可被取計候、尤止宿之儀、行懸之積、此先触早々継送児玉村^ニおゐて我等着之節可被相返候、已上

山本大膳手附

御普請役格

戊三月 岡田正助印

武州秩父郡 安戸村

同州児玉郡 児玉村迄

継場村々 役人中

廻状

山本大膳手附

岡田正助

此廻状自分先触一同継送可被申候

御巡見御勘定方、当月廿五日秩父郡安戸村御泊_り二冊、左之村々御休泊_り二付村々心得迄_二申達候間、御巡見道筋先々_江継送_り、児玉郡児玉村_二おゐて我等着之節、此書付可被返候、已上

三月 山本大膳手附 岡田正助印

御巡見御勘定方休泊附

三月廿五日

小川村休

同日

安戸村泊_り

同廿六日

三沢村休

同日

大宮郷泊_り

同廿七日

(上) 田野村休

同日

費川村泊_り

同廿八日

薄村休

同日

上小鹿野村泊

同廿九日

太田村休

同日

金崎村泊_り

四月朔日

寄居町休

同日

児玉村泊_り

右之通候、日限相違有之候ハゞ、追_而申達候

書付

山本大膳手附

岡田正助

武州秩父郡貫川村

役人中

書付

山本大膳手附

岡田正助

武州秩父郡三山村

役人中

此沓封御巡見御用之儀申遣間、三山村江早々可被相届候、已上

戊三月廿五日 岡田正助

山本大膳手附

武州秩父郡薄村

役人中

急半

廻文

今市村

役人

以廻文得御意候、然ハ明後廿四日夜御巡見様御旅宿、翌廿五日其御村々之儀、小川村迄之御案内道筋二御
坐候間、此段為御心得御達し申上候、道橋等御差支不相成様御取計頼上候、已上

三月廿二日

今市村 役人印

高見村

能増村

伊勢根村

高谷村

角山村

小川村

右村々

御役人中様

右^江 追々村々添書いたし大野原村^江 当郷^江 来候、依之上田野村へ尚又添書いたし遣^ス
一 同日昼八ツ半時、左之通御着被成候

一中尾太右衛門様 御宿 割方 松本宗左衛門

一 芳賀市三郎様 同 与頭格浅見屋 宗兵衛

一 小野作之丞様 同 名主 峯八

齋戸迄罷出候御案内人 名主 久保市郎兵衛
一同股引わらむし 半次郎

紋九郎

吉田伊平太組

組頭 吉人

源四郎組

同断

次十郎組

右同断

是^者去^ル 廿三日申談置候通、若御引離れ御越被成候節之ため、銘々之積^{リニ} 候所、御一緒御引続被成候得共、一

同御案内いたし候、但以来八名主・組頭兩人宛^ニ可宜候

一、御三方様御用人衆^者御先^江駄荷馬^ニ乗御越被成、夫々御差図被下候、此方々^江齋戸^ニ急^ニつへ払耆人宛近所之もの申付差出候^者、御案内村役人申聞候、是^者已来共兼^而用意いたし置可致候

一、御宿松本宗左衛門^江も先日八太郎家来羽織袴着用下町端迄御迎^ニ罷出候而御駕籠脇^ニ被立候御待^江御宿片御迎^ニ罷出候旨申上夫^ハ御具足櫃之先^江立門前迄来^リ脇^ニつくみ居候尤手前方之御泊^リ御方様^江銘々相待候上となた様御先^ニ候哉御順相分^リかたき事と相心得今朝組頭土左衛門^ヲ上沢村御昼休所迄遣し名主十次郎^江御順相同一寸書付遣し貴様^江遣候得共甚取込^ニ而能々相分^リ候様不申越候御役番として御先^江御越被成候方へ相伺候処何れも御具足櫃^ニ御名札有之候間夫^ヲ目当^ニ致し可然旨被仰聞候以来八右様相心得可申候

一、中尾太右衛門様御泊^江斗御朱印台是ハ私領御巡見様御泊^リ之節入用^ニ付御陣屋^ニ而御拵被成置候を物語いたし上之間^ニ差置候所御長持入^ニ者無之黒ひろふと袋^ニ入御懷中被遊御持参之様子^ニ而御朱印台^ヲ床之間^江御置被成其意を御わたし置被成候以来^者御三方様共三宝壺宛用意いたし候斗^ニ而宜候

一、御宿札相建候積^リニ而昨夜大工^江申付置候処御宿札ハ御持参尤御懸^ケ札^ニ而左之通

○中尾太右衛門泊

門柱^江相懸候但裏^ニ
中尾太右衛門休^与有之

一、左之板札御持参是又門柱^江懸^リ候

覚

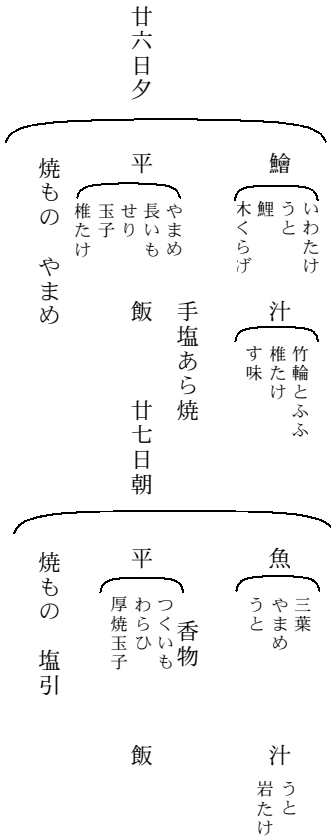
一、金銀^者勿論何様之輕^キ品^ニ而も堅可為無用若心得違^ニ差出候もの有之^ニおゐてハ可為越度事

- 一、御用中無用之者家来^江入交^り申間敷候事
 - 一、飯米^者所相場を以買上御定木錢相拂候事
 - 一、一汁一菜之外決^而馳走ケ間敷儀致間敷候事
- 右之通堅可相守もの也

月 日

中尾太右衛門

- 一、御陣屋[△]御代官稻垣新八様御三方様^江銘々御見舞被成候
- 一、御湯殿八式ケ所宛宿々^二而用意いたし候尤先日泊^り[△]申繼有之候
- 一、御賄等左之通原嶋屋久七請負^二而御宿四軒^江仕出し^二為致候



右入用 久七[△]書遣し 左之通^り

覚

- 一、沓費四百文 長いも 一、六拾四文 岩たけ 一、百廿四文 うと 一、六拾四文 きくらげ
- 一、貳百七拾四文 れんこん 一、七百分 つくいも 一、三百五十文 椎たけ 一、三百七拾四文 尺
- 一、三百文 太うと 一、貳朱 かつほぶし 一、七百五拾文 塩引 一、四百文 白砂糖
- 一、沓費貳百廿四文 やまめ^{廿八} 一、三百五拾文 酒壺升 一、四拾文 酢 一、百廿四文 わらひ^{三十三}
- 一、沓費貳百文 大やまめ 一、沓費百文 一、百七拾四文 酒 一、沓費三百五文 大やまめ
- 一、八百五拾文 みりん酒 一、八百七拾四文 玉子 一、四百八拾文 なし 一、百七拾四文 酒
- 一、四百廿四文 やまめ 一、百文 わらひ 一、貳朱 鯉壺本 一、四拾文 酢
- 一、三百四拾文 玉子四十 一、百五拾文 よし 一、八百六拾四文 之漬 一、八拾文 酢
- 一、百五拾文 生ふ 一、百五拾文 椎たけ 一、貳百文 やまめ 一、四百五拾文 さとふ
- 一、百文 三葉 一、百五拾文 炭 一、沓費貳百文 飯料 一、六百分 醤油

△金沓朱 錢拾六貫五百九拾文

外^二 一、金沓分 手間代

為金三兩、錢九拾文

右^者 御料御順見様御宿三軒昼御附役様御宿沓軒右四ヶ所^江 先日廿六日夕^六翌廿七日朝迄御賄入用品々相調切割者被付等仕御人数^二 応し夫々取分ヶ差上候代錢^并 手間代共^二 書上申所相違無御座候、衆御入用系八御宿々^二 而御調

被成候 已上

天保九^戌年正月

大宮中町

原寫屋 久七印

御割役所

覚

一、白米三升五合

但 御上様御老人様御下六人様分
御上下七人様御老人^二付

米五合宛

此代残五百八拾文

但所相場米壹升^二付

残百六拾四文

一、木錢百四拾壹文

但

御上様御老人様三拾五文
御下御老人様拾六文宛
御上下七人様分

〆 錢七百貳拾五文

右^者御巡見為御用被遊御通行当村御泊^二付、御定之木錢米代八所相場を以被下置慥^三奉請取候、尤一汁一菜之外
何^二而も御馳走^ケ間敷義^者勿論音物等^者不仕候、御下々迄御非分成儀毛頭無御座候 以上

戌三月廿六日

松平下總守領分

武州秩父郡大宮郷

名主

宗左衛門

組頭

茂

吉

覚

御朱印

一、人足式人

一、馬三疋

内式疋人足四人代り

御証文

一、御用長持杵棹

此為人足外賃人足杵人

此貸錢廿杵文

大宮郷の道法り

上田野村迄杵里

右^者御巡見為御用被遊御通行書面之通人足差出、賃人足之儀ハ御定之賃錢御拂被下置^二慥^二奉請取候、無賃人馬杵人杵疋差出^シ不申候、尤下人至迄御非分成儀毛頭無御座候 已上

松平下總守領分

武州秩父郡大宮郷

名主

宗左衛門

組頭

茂吉

戌三月廿六日

覚

錢百文^ニ付

一、白米六合替 但小売相場

一、金壹兩^二付

錢六匁^下六百文替

右^者所相場書上申候 已上

戌三月廿六日

松平^下總守領分
武州秩父郡大宮郷

名主

宗左衛門

与組

茂吉

覚

一、百七拾貳文 酒五合代

一、貳百文 焼酎三合代

〆 三百七拾貳文

右之通り御拂被成下^二慥^二奉請取候 已上

成三月廿六日

大宮郷

名主

宗左衛門

一、さど方^江御上宿被成候御兩人様^左之通請取預^リ置候

一、錢四百八文 御上下貳人分御旅籠代

右^者当町御止宿被成書面之通御旅籠錢被成御拂^与受返分

戊三月廿六日

武州秩父郡大宮郷

名主 宗左衛門
与 頭 善右衛門

山本大膳様御手附

岡田正助様

覚

一、人足耆人

此貸錢百耆文

右^者朝御用当町御通行^二付書面人足差出御定賃錢受取申候以上

戊三月廿六日

大宮郷

名主 宗左衛門

是^者御帳面^江記之

覚

一、錢四百四拾八文

御上下式人御旅籠代

前同文言

戊三月廿七日

大宮郷

名主 宗左衛門

伊奈半左衛門様御手代

与 頭 善右衛門

武藤彦次郎様

一、錢四拾文 本馬壹疋

右^者当郷^上田野村迄御繼立仕御定之賃錢御拂被下置慥^二奉受取候 以上

戌三月廿七日

大宮邸

名主

宗左衛門

此之通武藤様御帳^江記之

一、名主峯八方^二御泊^リ小野様御侍^シ頼^二付、買調上候酒代受取候者左之通

覚

一、錢百文 焼酎壹合五勺代

右之通、慥^二奉受取候 以上

戌 三月廿七日

大宮郷

名主

宗左衛門

上

三月廿七日 昼八ツ時過雨

一、朝五ツ時御三方様共、御出立被成候、尤、御駕籠并御荷物等上町中程^上田野村^江被遣、御一同武光山^江御廻^リ被遊候御案内^下影森村名主組頭罷出候、尤、當郷^二名主勇太郎、同見習彦次郎、并久保市郎兵衛組、与頭傳右衛門、峯八組与頭、佐古衛門罷出候処、此四人八、御駕籠^并荷物^二附添、上田野村迄罷越、相渡、請取

書取之持參候

一、人馬^著馬三疋、人足八拾人、郷中[△]差出候、此内人足拾人程、餘分之積^リ御座候所、同人拂意外入用出来、不残遣^ヒ候事

一、岡田正助様 武藤彦次郎様^も御一同御出立被成候、此人足も、古^ニ籠^リ候事

一、影森村[△]御弁當武光山^江持參差上候旨^ニ候

一、上田野村^江夕方御越被成遲^リ候得共、昼御賄支度致置候^ニ付、召上り、暮時御出立被成候由^ニ候

一、御陣屋[△]も、御手附齊藤弥右衛門殿[△]上田野村御繼立場迄被差遣、人馬繼立等^七話被成候由

一、中尾太右衛門様御用人^江、當郷人馬、影森村^へ可繼之處間近^ニ付、同村^江も申談、上田野村迄、御繼立仕候旨申上候所、左様相成候得^ハ、却^而宜旨御申被成候

一、當所者、諸事殊之外行届候旨、御三方様御用人中、其外御侍衆迄被雇者候、町々^并宮地下郷共火事道具御通筋^江かざり置候儀等、別而御目^ニ付候様被察候事

三月廿八日 朝小雨 昼過晴

一、午上刻、三沢村名主重次郎方[△]人足式人を以、左之通御巡見様方御先触差越候^ニ付請取左之通遣^ス、
覚

一、御朱印御写 三通

一、人馬割 三通

一、御休御泊書 壹通

一、御先触 壹通

一、同御添書 壹通

九通 但、白木箱入

右之通、御巡見様御先触、慥_ニ請取申候 已上

戊三月廿八日 松田宗左衛門

午上刻 三沢村

名主 重次郎殿

御先触箱上書

先触	安藤治右衛門内
	長江三郎兵衛
	馬場大助内
	仙石伊兵衛
	内藤源助内
相良進平	

御朱印写

人足八人、馬拾五疋、從江戸、武藏、相模、安房、上総、下総、常陸、伊豆、上野、下野迄、上下可出之、是者、右之國々為巡見、安藤治右衛門、被遣付_而被下之者也

天保九年三月四日

右宿中

御朱印

人足八人、馬拾五疋、從江戸、武藏、相模、安房、上総、下総、常陸、伊豆、上野、下野迄、上下可出之、是者、右之国々為巡見、馬場大助被遣付而被下之者也

天保九年三月四日

右宿中

御朱印

人足八人、馬拾疋（五疋）、從江戸、武藏、相模、安房、上総、下総、常陸、伊豆、上野、下野迄、上下可出之、是者、右之国々為巡見、内藤源助被遣付被下之者也

天保九年三月四日

右宿中

覺

御朱印人足 八人

御朱印傳馬 拾五疋

内九疋馬、可被差出候

六疋分代、人足拾貳人可被差出候

一、賃人足 貳拾人

人足 合四拾人

内分持

具足持 貳人

乗物 四人

長持貳棹 六人

茶弁當壹荷 壹人

両持六荷 六人

合羽籠三荷 三人

挑灯籠壹荷 壹人

分持 壹人

供駕籠四挺 拾貳人

竹馬四荷 四人

ノ 四拾人

右安藤治右衛門分

覺

御朱印人足 八人

御朱印傳馬 拾五疋

内

九疋馬可差出候

六疋分代り人足拾式人分可被差出候

一、賃人足 式拾式人

人足合 四拾式人

内分持

具足持 式人

乗物 六人

両掛六荷 六人

合羽籠三荷 三人

竹馬四荷 四人

長持式棹 六人

挑灯籠壹荷 壹人

茶弁當壹荷 壹人

供駕籠四挺 拾式人

分持 壹人

四拾式人

右馬場大助分

相模國愛甲郡

三増村 休

三月廿六日

同國津久井縣

中三村 泊

同日

同國高座郡

當磨村 休

同廿七日

同國同郡

座間^宿村 泊

同日

同國同郡

靄間郡 休

同廿八日

武蔵國都筑郡

荏田村 泊

同日

同國橘樹郡

溝口村 休

同廿九日

同國多摩郡

府中宿 泊

同日

同國同郡

日野本郷 休

四月朔日

同國秩父郡

三沢村 休 同五日

同國同郡

大宮町泊 同日

同郡同郡

贊川村休 同六日

同國同郡

小鹿野町 泊 同日

以上

右者巡見為御用安藤治右衛門、馬場大助、内藤源助被相越候、如先年、人馬次之村々、無滞可被差出候
御朱印之写相廻候、村々為心得休泊致遣し候

尤、其節^三至休泊違候儀。可有之候無相違順達小鹿野町於泊可被相返候 以上

三月廿三日

内藤源助内

相良進平 印

馬場大助内

仙石伊兵衛 印

安藤治右衛門内

長江三郎兵衛印

相模國愛甲郡三増村 〆

武蔵國秩父郡小鹿野町迄

村々名主中

以別紙申入候昼休泊共、木銭申付候間、食事支度等致置候儀堅無用^{二付}宿割之者相越委細可申聞候間、左様相心得可有之候

三月廿三日

内藤源助内

相良進平

印

馬場大助内

仙石伊兵衛

印

安藤治右衛門内

長江三郎兵衛印

相模國愛甲郡三増村[△]

武藏國秩父郡小鹿野町迄

村々名主申

一、日野田組頭六左衛門、野坂同平兵衛、兩人呼申分、兼^而被仰付置候通、右御先触相渡、早々持參白久村上組与頭老人同道、贄川村^江繼屈ケ、請取書取之、持參可致申達候、尤、白久村上組當番与組清八^江も書面を以、右之段申遣候

一、暮過、右兩人左之請取書持參罷歸候

覚

一、御朱印御写

三通

一、人馬割

三通

一、御休泊附書 壺通

一、御先触 壺通

但、中壺寸五分程上り下_二少々墨付有之

一、御添書 壺通

九通 但、白木箱入

右之通

御巡見様方御先触、慥_二受取申候 以上

戊三月廿八日 贊川村 名主

申下刻 初 蔵印 武左衛門印

大宮郷 与頭 六左衛門殿

平 兵衛殿

白久村 當番 清 八殿

大宮郷 名主 宗左衛門殿

一、御陣屋_江罷出、御代官様方并御用番割役加藤四郎左衛門_江も、御巡見様御先触来候旨、先ツ口上_二而御届申上候事

一、加藤四郎左衛門方_左左之通

覚

當、廿九日、御奉行様御着^{二付}、村々^江右之趣相達候付步行番^二者^一廻^リ兼候間、早々外^二者^一人御出被下候以上

一、御代官様、今日、三沢村迄御越被成候、右^{二付}大野原迄、人足^一者^二人、早々御陣屋^ハ御出し被成候 以上

戊三月廿八日 加藤四郎左衛門

松本宗左衛門殿

覚

^{二付}者^一老村^二者^一組^二名^一主^二者^一人^二宛

右者、明廿九日、御奉行様御着被成候付、御着之上、御機嫌御伺^二如何候様尤、外御用筋も有之候^{二付}右日限御着之上、一同書面之通、相揃候様、御取計可被成候、右御着^{二付}候而^ハ、大宮郷之処、例之通、是又、御取計可被成候 以上

戊三月廿八日

加藤四郎左衛門

松本宗左衛門殿

右之通申来候付、阿りき番^并人足^共、峯八様^ハ彦次郎様申達候、且又、組々^江左之通相触候

覚

^念藩^勘定^奉行^行栗田十兵衛様今度御巡見御通行^{二付}、明廿九日当御陣屋^江御越被成候間、例之通下町端迄各御迎^二罷出候様可被成候

一名主源四郎殿^ハ準平病氣^ニ付、代与頭八左衛門殿^江申入候、各齋戸迄罷出御案内可被成候、尤待番之もの差
出置、例之通我等方^并御陣屋^ハ為相知候様可被成候

一名主半次郎殿^ハ紋九郎殿^江申入候、各組^カ与頭老人宛齋戸迄差出、名主中同様御案内致候様取計可被成候
一御陣屋^江御着後御用之儀有之候間、名主中八組之一同罷出候様被 仰付候間相心得、不残相揃居候様可候、
以上

三月廿八日

松本宗左衛門

吉田伊平太 殿（割役格名主）

外名主中連印

組準平病氣^ニ付

与頭八左衛門宛

一御代官伊藤升次郎様三沢村^江御越被成候、是^者明日御奉行様御通^リ懸、同村御巡見使御休宿之御見分被成候^ニ付、
御立合として御泊^リ懸^ニ御出被成候旨^ニ候

三月廿九日 晴

一御巡見様御先触写、左之通御代官様^ハ差上候、組広紙帳^ニ認候

天保九戌年三月

御巡見様御先触写

前書^二御朱印写三通、其外

六通共丸写^二して奥書左之通

右御巡見様御先触今廿八日到来候間、兼^而被仰付置候通、当郷与頭六左衛門・平兵衛兩人^二持參、白久村与頭壹人同道、贄川村役人^江相渡候様、右兩人^江申聞相渡申候、依之写差上御届申上候、以上

天保九戌年三月廿八日

大宮郷
割役

御代官所

松本宗左衛門

一昨日左之通組控落^二付、此所^二記し候

巡見^於御用先
中尾太右衛門殿
無別条
四ツ谷伊賀町
中尾左伝次

此御用状今廿六日午上刻御渡^二相成候付、即刻繼送候間、御巡見御用先御糺刻付を以御繼送^り、御用先^二至^り候て御差上可被成候、以上

板橋宿

問屋

市左衛門

三月廿六日

午上刻

蕨宿[△]

鴻巣宿[△]

夫[△]御巡見先之

御問屋

参宿中

右御用状熊谷宿・清ノ田村・御所村・野本村・下唐子村・菅谷村・小川村・安戸村・坂本村・三沢村・大野原村、

右村々繼来^リ候付、添書いたし寺尾田村郷上小鹿野村迄繼送候、是ハ廿八日同村御泊^リ之礼^ニ付、此之通取計候所、同日夕方廿八日^著贄川村御逗留之由風聞有之

一名主勇太郎儀昨廿八日朝出立、府中宿^江御巡見御泊^リ之節儀品々々聞合^ニ罷越候、尤先例^著青梅町^江罷出候得共、御代官様^ハ被^レ仰付府中迄差遣候、依之一昨廿七日夕御代官様^ハ色々聞合之儀數ヶ条御認御渡被成候事

一昼八ツ半時栗田十兵衛様御手附石川平七殿^并御組衆三人御召連、御陣屋^江御着被成候
一村々名主共一同被召出、御代官稲垣新八様^ハ左之御書付之趣被仰渡候

御巡見使様方御通之節、為拜見御通筋^江罷出不申様可申付候

一御通筋之村々^著、猶以御通行之節作法宜、家々之前御通^リ之砌、床上^ニ居申間敷候、勿論煙を不出、高声等不致様可申付候

一繼人馬差出候村方^著致吟味、丈夫成人馬可出之、尤人足之者見苦敷無之様前日髪・月代為致可差出候、且多弁^{ニ而}むた口^ハ^著杯^キ、候もの^著自然慮外等難計間外役引替、差出し人馬肝煎・才料之者共、猶又心を附可申事

一御巡見使様方御供廻自然買物いたし候ハ、兼々之直段相応^ニ買候様可申付候、尤其節万端懇懃^ニ可仕候

一御通之節^并大宮郷御止宿中村々辻番所^江棒式本飾置、番人式人宛昼夜差置可仕候、御通行之節^著番人番所之前歟^{江開キ}、急度平伏可仕候

一村々火之元之義別^而入念、不限昼夜無油断火之廻可致候、大宮郷町並^{ニ而著}拍子木為打可申候

附、夜中おどし鉄炮為打申間敷候

一御三方様御着前より御出立迄之内大宮郷町中為見廻、御陣屋^ハ折々出張有之間、其度毎大宮郷名主・組頭等

兩人宛案内可致候

一大宮郷^者不及申、其外村々自然出火有之節、名主・与頭人足召連、早速駈集^リ可申候、昼^者村印之簾、夜中八纏・

挑灯村名相糺可申候、人足共夫々之火消道具致持參、御役人并割役名主・与頭之差図^{（ツ）}を受、情^{（ツ）}出し火を消

可申候、万一不參之者、或^者風上・風脇之者共火元^江不罷出^二おゐて^者追^而可遂吟味候

一御三方様御宿^ハ御寄合等^二御出被成候節^者、箱番所御足輕下座致候義^二付、町中之者共かむり物等決^而仕間敷、

途中^二も其所^ハ急度平伏可致候、店先^二も下^江下^リ候様随分心を附可申候、尤御着之節^并御出立之節、御駕籠^二

^而御通行之節も右之通可相心得候

右申渡候趣、心得違無之様村役人^ハ可申聞候事

戌三月

四月朔日 曇

一御代官市川半六様今日御陣屋^江御着被成候旨、稲垣新八様^ハ被仰越候付、名主勇太郎方^ハ御案内与頭申達候

一御巡見使様御宿之御賄方、其外七話被仰付置候者共諸道具借用取集^二宿々^江罷出候事

一穀商人仲間当行事亀屋太右衛門・平井屋善八^江諸色相場直段書明日迄可差出旨申達候

一酒造屋仲間行事升屋利兵衛・松屋清蔵^江酒小売相場直段書付明日迄可差出旨申達候

一昨日村々名主共^江被仰渡之趣、当郷組々^并持高名主中^江左之通廻状出^ス

前書^二昨日被仰渡候御書付認之

右^者昨廿九日村々名主共一同被召出、御代官稲垣新八様被仰渡候御書付之趣、組々^二小前末々迄不洩様相達、

心得違之もの無之様取計可被成候

一此廻状名下被受印刻付を以早々順達、留_ル相返可被成候、以上

四月朔日

松本宗左衛門

吉田伊平太殿

外名主^并持高名主中

不残連名宛

一右被 仰渡之趣当組下^江左之通

前書之ヶ条不残相認之

右之通昨廿九日村々名主共御陣屋^へ被召出、被仰渡之御書付之趣奉承知、店借抱之者共不洩様為申聞、心得違之もの無之様可被成候

一此廻状名下組受印早々順達、留_ル可被返候、以上

四月朔日

松本宗左衛門

上町彦助殿

外上町・中町・久保寺下町迄

組下中連名宛所

一上宮地・下宮地・桜木^江右同断廻状_又通出_ス

一八ツ時市川半六様御陣屋^へ御着被成候

一御奉行様明日九ツ時御巡見使当所御宿之御見分被成候付、御案内村役人忝人差出候様加藤四郎左衛門申聞候付、是四郎左衛門^江申達候、尤御代官様其外共御人数拾忝人之由、御賄之儀^著名主峯八方^二而仕候筈兼々相談被置、今朝も申談候事

四月二日 晴

一御代官稲垣新八様^江先例^二付御伺申上、左之通

覚

御巡見様来^ル五日当町御泊^リ相成候付、左之通

一町々自身番^并大自身番共来^ル五日夜迄相勤可申候事

但、五日^著昼夜共罷出居可申候、且又当所^江棒式本差置、御通行之節ハ勿論、御陣屋御役人様方御通^リ之節

も番所^ハ前^江下^リ平伏可致候

一当日町内両側 三間間^二盛砂可致事

但、忝斗盛

一水手桶^江柄杓添差出可申候

但、間口三四間之家^二而 忝桶

間口七八間之家^二而 忝桶

一夜^二入御通行^三候ハ、軒別行燈可差出候事

但、翌朝御出立も夜之中^二候ハ、御通行筋行燈可被差出候

右之通町方^江可相違旨被仰付候間、早々可申達候、盛砂^并水手桶・行燈等兼^而用意致置、当日差支無之様可被申置候、尤水手桶^并行燈新規^二相調候^三不及候、在合之品相用ひ候^而宜候、此段も可申聞候

一色々申談候儀有之候間、今夕方我等方^へ寄合候様可被成候、尤持高名主中八罷出候^二及不申候

四月二日

松本宗左衛門

名主^并持高名主中

不殘連名宛

一町内組下^江左之通廻状出^ス

覚

前之組々^江出し候四ヶ条不殘認之

右之通^リ町方^江可相違旨被仰付候間、盛砂^并水手桶・行燈等兼々用意いたし置、当日差支無之様可致候、尤水

手桶^并行燈新規^二相調候^三不及候、在合之品相用ひ候^而宜候、此段店借之者^へも可申達候、已上

四月二日

松本宗左衛門

上町彦助殿

外上・中・下町組下中

連名宛

一穀商人仲間行事之者^へ左之通直段書付出^ス

相場直段書

一 玄米	金壹兩 ^二 付	四斗六升
一 白米	小壳壹升代	百六拾文
一 大麦	金壹兩 ^二 付	八斗
一 同	小壳壹升代	八拾文
一 小麦	金壹兩 ^二 付	五斗
一 同	小壳壹升代	百三拾八文
一 大豆	金壹兩 ^二 付	七斗五升
一 同	小壳壹升代	八拾八文
一 小豆	金壹兩 ^二 付	五斗三升
一 同	小壳壹升代	百貳拾四文
一 水油	小壳壹升代	六百文
一 塩	小壳壹升代	六拾四文
一 醬油	小壳壹升代	百貳拾四文
一 酢	小壳壹升代	百貳拾四文
一 味噌	小壳百文 ^二 付	三百五拾目
一 半紙	壹帖代	貳拾四文
一 広紙	壹帖代	拾八文

一 髮附油 壹本代 貳拾八文
 一 切元結 壹把代 貳拾八文
 一 細引繩 壹筋代 百文
 一 錢 金壹両_二付 六貫六百文

右之通相場直段附差上申候、已上

天保九年_戊 四月

御村役人中

大宮郷
 穀・塩・水油諸色商人
 行事
 かめ屋 平井屋
 太右衛門印 良 七〃

一 左之御役人様方御巡見使御宿三軒御見分有之

御勘定奉行 御組衆 三人
 栗田十兵衛様_并 御 下 三人